遊学舎武雄こども園　園だより
2026 年（令和８年）　３月号
「１７８のこころ」

１４日にさくらぐみ３６名が卒園しました。こども園での６年間の中で長い子は、４年間を共に過ごした子どもたちで、私にとって特別な想いがあった卒園式でした。子どもたちの立派になった姿を見ていると、たくさんの思い出が浮かんできて、小さかった頃、入園したばかりで泣いてばかりだった頃に想いを馳せていました。乳幼児期の貴重な毎日を一緒に過ごし、笑ったり、怒ったり、泣いたりしながら成長していく子どもたちを、傍らで見守ることができたこと、子どもたちと一緒に私自身も成長させてもらったことが嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

卒園式が近づいてきたある日の夕方、Ａくんが「先生～どれを書けばいいかおしえて！」と言ってきました。「何を書いているの？」と聞くと、「お友だちの名前を全部書いてると。みんなの名前を忘れんごと！」と応えました。呼ばれて行ってみるとノートに担任の名前、数名の友だちの名前が書かれていました。Ａくんは市外の小学校へ一人で入学するお友だちです。きっと寂しさや不安がある中で、大好きな友だちのことを忘れたくないと思い、覚えたての平仮名で必死に書いていたようです。ちょっと前までは字を書くことにあまり興味を示していなかったＡくん。卒園を目の前にいろんな気持ちが入り交じる中で、自分でやるべきことを考えて取り組んだＡくんの心の成長を感じました。

さくらぐみ３６名の子どもたちは７校の小学校にそれぞれ分かれて入学します。

さいしょはふあんなこともあるかもしれないけど、みんななならだいじょうぶ！きっとすてきないちねんせいになれるよ。もしさびしくなったらたけおこどもえんにたくさんのおうえんたいがいることをわすれないでね。それから、いつでもあいにきてね。しょうがっこうに「いってらっしゃい！」

あっという間に年度最後の月となりました。毎年この時期に保護者様に園へのアンケートをお願いしているのですが、そのなかに武雄こども園には温かく幸せな「空気」があります、というお言葉がありました。

「空気」とは、目には見えないものであり、いくつかの複合体で成り立つもの。その複合物のバランスはほぼ一定に保たれているけれど、ふとした拍子に崩れることがある。例えば、緊張感が走るとき。たくさん笑ったとき。悲しいけれど、いじめも空気だとどこかで読んだこともあります。

その感触を得ることはできないが、どこまでも纏うことができるもの。それが空気。何だか想いと重なるような気がします。

３月。私たちがここを去りゆく方々にとっての空気となり、共に在り続けることを願います。
そうすれば、ずっと一緒にいられますものね。その願いを、私たちの小さなわがままと思って、心のどこかにそっと留め置き下さい。そして、新しい空気を迎え入れる時も、どうぞ「あなたはあなたのままで」いてくださいね。

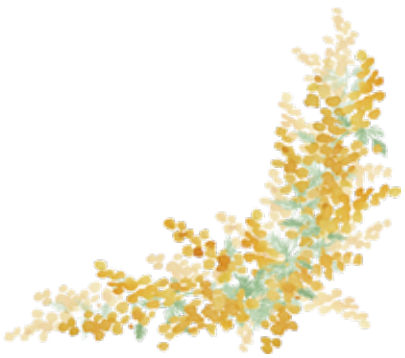
「愛とは」

あなたが隠したくなる感情、例えば、恐れや怒り、そして疲弊。
それらを見ても尚、あなたと共に在ることを選ぶこと。

心が溺れそうになった時の安堵。
混沌のなかでの静けさ、嵐のなかでの錨（いかり）。

自分自身の価値を見失ったとき、そっと思い出させてくれるもの。
傷ついたとき、どうにかして元通りにしようとせず、癒えるまでそばにいてくれるもの。

私は大丈夫、という言葉の裏にある、静けさへの理解者。
求め方が分からない時も変わらず与えられる心地よさ。

あなたが離れてしまったとしても、強く結びつけようとしない絆。
あなたが見せる弱さを癒しや喜びとし、その人間らしさを守り、更に尚、あなたを選ぶこと。

あなたを選ぶこと。
それが、愛。